

新生匠瑳戦略会議（中間報告打ち合わせ会議） 会議録（概要版）

開催日時：平成24年5月24日（木）

午後7時15分～9時50分

開催場所：八日市場ドーム選手控室

出席委員：（学識経験者）渡辺新

（団体推薦者）宇野充紘

（一般公募者）大塚榮一、岡田陽子、永野亮太、林暁男、八木幸市

（7人／名簿順）

欠席委員：（学識経験者）鎌田元弘、木村乃

（団体推薦者）安藤建子、萱森孝雄、越川竹晴、越川八代枝

鈴木和彦、橋場永尚

（8人／名簿順）

市出席者：（事務局/企画課）大木副主幹、富井副主査（2人）

【 議 事 】

（1）提案書（中間報告）について

- ・ 中間報告の構成としては、1章「新生匠瑳戦略会議の概要」で、2章「懸案事項が発生する要因と背景」で、以下4項目に分けている。①「社会の構造変化」、②「懸案事項ならびに重要事項の要因と背景」、③「跡地利用問題への配慮」、④「『自分ごと戦略』の提唱」である。3章「市行政の変化と自律した市民」で、4章「J T跡地利用問題に関する今後の取組に関する提案」である。5章で「最後に」ということで一言つけ加えてある。
- ・ 人口減少を受け入れるということは、会議でも何回か議論したが、それを受け入れる前提で今後のまちづくりや地域計画を立てなければならないということで、それは海岸侵食についても同様である。
- ・ J T跡地の周辺の土地を買収してもっと土地を広くして、そこへ市民病院を移転したらどうか。現在、市民病院では屋根や水道管も壊れかけていて、入院している患者さんの中にも心配している人がいるようである。高級ホテルのようなレベルを望んでいるわけではないが、衛生的に心配な部分がある。
- ・ 現在の場所に病院を建て直す場合には、周辺が埋蔵文化財の包蔵地になっているとすることで、事前に調査を行わなければならない。ぬくもりの郷の時は、約7,000万

円の調査費用がかかったとのことである。

- ・病院の経営が良くなっていくときにはいくつかのきっかけがあり、施設を建て替えるときは一つのチャンスでもある。
- ・以前、医師会館の話が出たときに寄付の話があった。銀行に「市民病院を建てる会」などの名称で口座を作り、寄付を募れば集まるのではないか。
- ・将来的に周辺病院との関係や市民病院の位置づけを考えておかないと、病院を建て替えても人口が減っていくので、結局は患者が集まらなくなってしまうのではないか。将来的な人口を考えると、総合病院を目指すのは無理だと思う。
- ・結局、市民病院がどのような病院を目指していくかが重要である。まず、旭中央病院という大きな病院があるので、そこで任せられるものは任せて、不足する部分をフォローするスタンスで、かつ、必要最低限の規模で黒字化できる状況が望ましい。患者の行き場がないという話もあったが、その患者を受け持つということも生き残る一つの道だと思う。
- ・基本は旭中央病院を軸として、市民病院は総合病院を目指すのではなく、何かに特化していくべきではないか。医師や看護師、病床数に応じて、受け入れられる患者数も決まってくるが、断りきれない患者を無理に受け入れて長く入院させておくと、かえって赤字につながるようである。
- ・住民による地域づくりが盛んなところは、しっかりとした学習組織があり、市民が熱心に勉強している。匝瑳市でも、いろいろな活動が展開されていると思うが、行政としてそれを育成するようなことを今までやってこなかったのである。それらの活動を表に出して、市民が自らリーダーシップを発揮し、具体的に何かを作るといふ動きまで育成していくことが、行政の仕事だと思う。
- ・5章の最後の部分の言い回しが否定的になっている。「～しなければ、～できないだろう。」ではなく、「～すれば、～できるだろう。」というように、肯定的によりポジティブな表現にしたらどうか。
- ・以前から中間報告の中で具体案が欲しいということはお願ひしてきているが、今回の中間報告を見た限りでは、そういう部分は含まれていない。J T跡地の章でこれまで出てきた案がいくつか書かれているが、これは主体性がないので意味をもたないものだと本文で否定されている。
- ・事務局からは「具体案を」と言われてきているが、それを入れるのは戦略会議の趣旨には合わないという考え方もある。また、具体案を出すには、その元となる行政側のビジョンがなければ戦略も戦術も出てこない。
- ・病院関係の話を知っていると、具体案を出すとなれば、市民病院の移転・新築しか

ないのではないかと思った。ただ、施設の老朽化や土地が空いているという理由だけでは、結局他人ごとになってしまう。寄付が集まる仕組みや市民が自分ごととして考える仕組みを提示できれば、J T跡地の具体案として市民病院の移転・新築という可能性は0ではないと思う。もし、中間報告に組み込むとすれば、別の章で扱うことになると思う。

- ・市民病院を具体案として入れるとすれば、問題は、中間支援機能をどうするかたちで作るかということである。ただ土地があって便利だからというだけでは、やはり他人ごとで終わってしまう。
- ・数年前に、心臓病になった子どもがいて、アメリカへ手術をしに行くために寄付を募ったところ、目標額を大幅に上回る額の募金が集まった。そういう気運や文化が、匝瑳市にはあると思う。募金などの具体的な動きが出てくれば、みんなでその方向に大きく動き始めるのではないか。
- ・匝瑳市に寄付や募金をする気運があるとすれば、問題はその組織をどうやって作るかである。それらの仕組みを考える時間や中間報告に入れるかどうかの結論を出すまで、2週間の時間を頂きたい。

(2) その他

次回の会議日程は6月21日（木）とし、午後7時から八日市場ドームで行う。